



持続可能な開発に関するグローバル・レポート (GSDR2019)の概要

持続可能な開発目標（SDGs）ステークホルダーズ・ミーティング第10回会合
2019年11月11日(月)

(公財) 地球環境戦略研究機関(IGES)
持続可能性ガバナンスセンター
主任研究員 吉田哲郎
T-YOSHIDA@IGES.ORG.JP



持続可能な開発に関するグローバル・レポート (GSDR2019)

- 2015年のSDGs採択後初となる科学ベースのSDGs進捗報告書。4年に1度開催されるSDGサミットに合わせて発表される。毎年、発表される国連事務総長のSDG進捗報告書を補完。
- 110の自発的国家レビュー（VNR）のうち、35は目標を自国の予算にリンクするか、そのようなアクションを具体的に検討していると表明。
- しかしSDGsの169のターゲットのほとんどが達成するための軌道に乗っていない。**
- 持続可能な開発のための科学を強調。良くも悪くも、科学と技術は、変化のための強力なエージェント。
- 経済成長を環境悪化から完全に切り離すこと(デカップリング)が必要。持続可能な開発への推移、技術の導入で失職する人々の生計にも留意。
- 富、収入、機会へのアクセスにおける社会的不平等、ジェンダー不平等をなくすことが重要。
- 先進国は生産と消費のパターンを変更（化石燃料とプラスチックの使用制限など）、SDGsと整合性のある民間投資を推進する必要がある。
- 公共部門と民間部門の両方で、狭い自己利益ではなく、共通の利益の実現に向け機能する政策を促進する必要あり。**

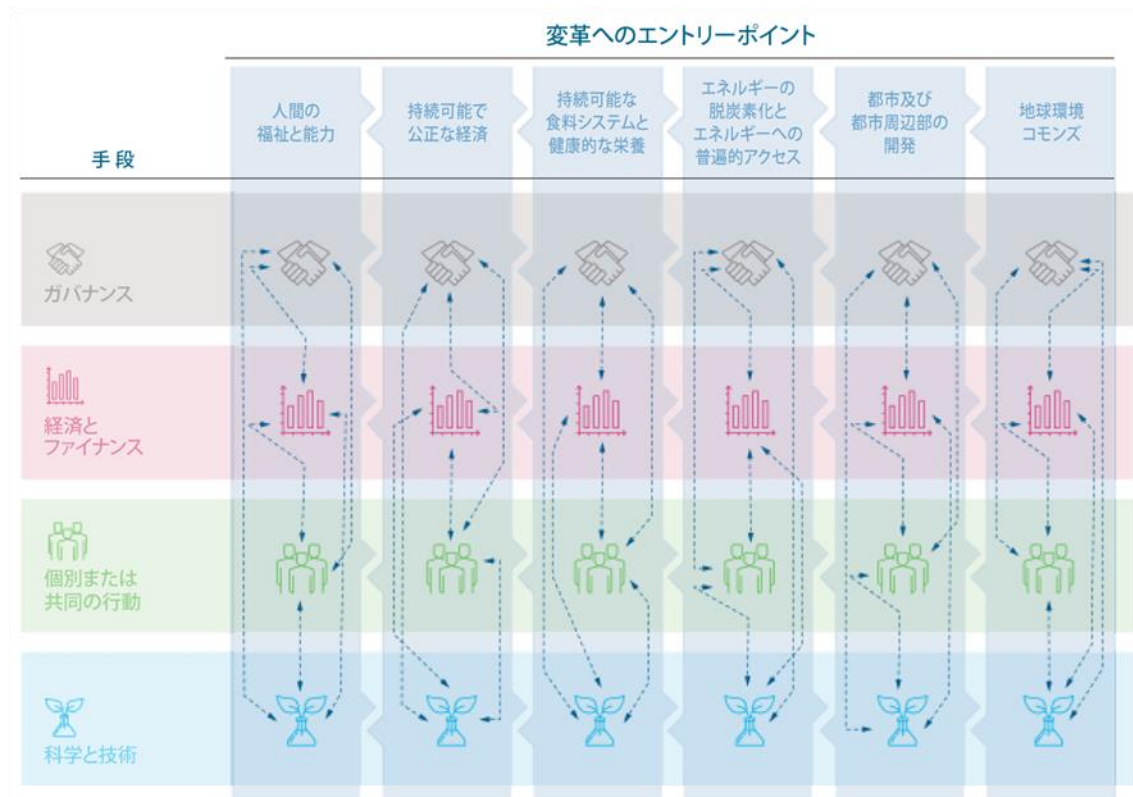


6つの重要な「エントリーポイント」

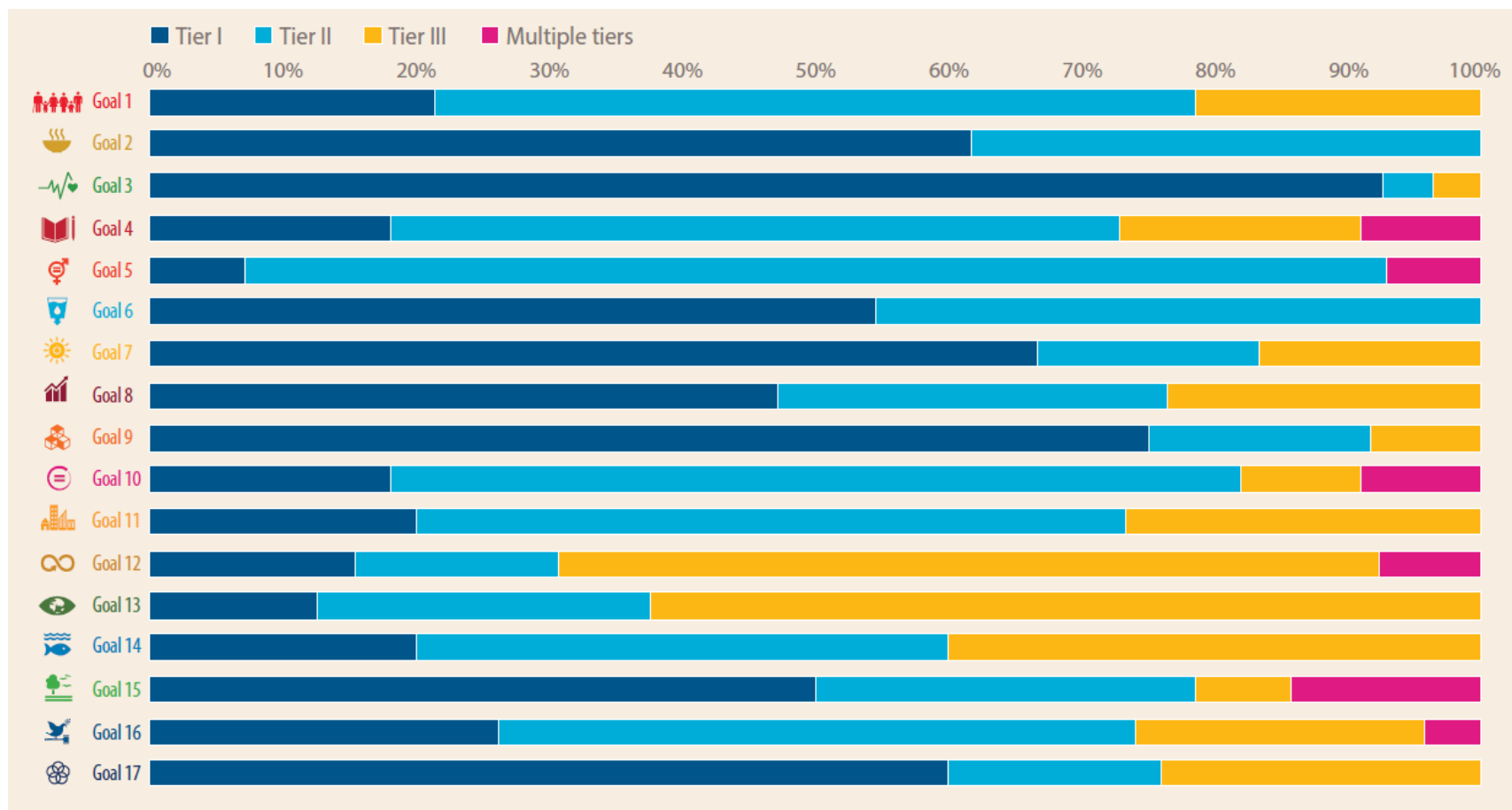
1. 人間の福祉と能力の強化
2. 持続可能で公正な経済への移行
3. 持続可能な食料システムと健康的な栄養パターンの構築
4. エネルギーの脱炭素化とエネルギーへの普遍的アクセスの達成
5. 持続可能な都市及び都市周辺部の開発の促進
6. 地球環境コモンズの確保

4つの手段

- ガバナンス
- 経済とファイナンス
- 個別または共同の行動
- 科学と技術



グローバル・モニタリングのための指標



- 232の指標が、手法の開発レベル、データの有無によってTier I～IIIに分類されている（Tier I=確固たる手法、データがある、Tier IIIどちらもなし）。
- 2019年5月現在、232の指標のうち、104はTier I、88がTier II、34がTier IIIに分類されている。2020年3月に統計委員会によって包括的に見直し予定。

ターゲット（例示）の2030年までの達成トレンド予測

GOAL	WITHIN 5%	5-10%	>10%	NEGATIVE LONG-TERM TREND
 Goal 1		1.1. Eradicating extreme poverty	1.3. Social protection for all	
 Goal 2		2.1. Ending hunger (undernourishment)	2.2. Ending malnutrition (stunting) 2.5. Maintaining genetic diversity 2.a. Investment in agriculture*	2.2. Ending malnutrition (overweight)
 Goal 3	3.2. Under-5 mortality 3.2. Neonatal mortality		3.1. Maternal mortality 3.4. Premature deaths from non-communicable diseases	
 Goal 4	4.1 Enrolment in primary education	4.6 Literacy among youth and adults	4.2. Early childhood development 4.1 Enrolment in secondary education 4.3 Enrolment in tertiary education	
 Goal 5			5.5. Women political participation	
 Goal 6		6.2. Access to safe sanitation (open defecation practices)	6.1. Access to safely managed drinking water 6.2. Access to safely managed sanitation services	
 Goal 7		7.1. Access to electricity	7.2. Share of renewable energy* 7.3. Energy intensity	
 Goal 8			8.7. Use of child labour	
 Goal 9		9.5. Enhancing scientific research (R&D expenditure)	9.5. Enhancing scientific research (number of researchers)	
 Goal 10			10.c. Remittance costs	Inequality in income*
 Goal 11			11.1. Urban population living in slums*	
 Goal 12				12.2. Absolute material footprint, and DMC*
 Goal 13				Global GHG emissions relative to Paris targets*
 Goal 14				14.1. Continued deterioration of coastal waters* 14.4. Overfishing*
 Goal 15				15.5. Biodiversity loss* 15.7. Wildlife poaching and trafficking*
 Goal 16			16.9 Universal birth registration **	

- 不平等（SDG10）、環境ゴール(SDG12～15)の進捗は概ね芳しくない。
- 特に不平等の増大、気候変動、生物多様性の損失、及び処理能力を凌駕する廃棄物の増加が、負の転換点（tipping points）に向かっている。
- 初等教育(SDG4)、新生児 及び 5歳未満児死亡率(SDG3)は、進捗あり。

ご清聴ありがとうございました。



<https://iges.or.jp/jp/pub/gsdr2019-j/ja>

日本語版エグゼクティブ・サマリーを国連広報センター/IGES共同で作成。